

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立長尾高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学合格者、難関私立大学（8私大・15私大）のべ現役合格者数の増加 ・ 医療看護系大学及び専門学校合格率の維持・向上 ・ 就職内定率 100%維持、公務員試験合格率の向上
計画名	「学びの改革」プロジェクト1

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成と進路実現の支援</p> <p>（1）授業力の向上と確かな学力の育成</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 大学入学者選抜改革を踏まえ、社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る</p>
事業目標	<p>多様な進路希望の実現に向け、『知識・技能』を生かした『思考力・判断力・表現力』を育成し、小論文・プレゼンテーション・面接等でもそれらの力を発揮できるようにすることが喫緊の課題である。</p> <p>本事業により『進路学習室』を整備し、「進路実現の支援」をより一層充実させ、生徒が意欲的・主体的・協働的に学習に取り組み、上記の力と自信を持たせることで進路実現につなげる。</p> <p>◆『進路学習室』の整備</p> <p>（1）『進路学習室』の有効活用</p> <p>① 黒板を撤去し、前・横・後面をホワイトボード化し、プロジェクターの投影、教室の分割活用を可能にする。</p> <p>② Wi fi 環境を整えタブレットを配備。調べ学習、学習支援ツールを利用した自学自習への活用につなげる。</p> <p>（2）ICT 機器の活用・工夫による学びの充実</p> <p>① 短焦点プロジェクターを設置し、「視覚・聴覚に訴える教材」の活用により、生徒の思考・理解を深める。</p> <p>② プロジェクター機能付きビデオカメラによる映写、書画カメラやプロジェクターによる投影により、複数のコンテンツをレスポンス良くホワイトボード上に提示し有機的に活用することで、生徒の気づきや理解を深める。</p> <p>（3）「主体的・対話的で深い学び」の実現</p> <p>ホワイトボード仕様のパーテーションを適宜活用しグループ学習を行う。録画したプレゼンや面接をもとに、生徒が自身の発表や言動を客観視して振り返り、討論しながらより良いものを模索する、他のグループの学びを共有するなど、「主体的・対話的で深い学び」につなげる。</p>
整備した 設備・物品	教室2面ホワイトボード設置（1室）、天井吊下げ式電子黒板機能付き短焦点プロジェクター（1台）、書画カメラ（1）、ノートパソコン、ビデオカメラ、三脚、パーテーション、タブレット型端末機、充電保管庫、無線ルーター、収納映写台

<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主 担：「学びの改革」PT（主に進路指導主事及び情報科教員） 実施者：主に進路指導部 就職担当者、面接指導及び進路講習担当者、3年進路指導担当者、生物科教員</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>1 進路指導…進路ガイダンス、大学等の講師による出前授業、面接指導、学習支援ツールを使った学習、就職指導等の取組みに活用した。 特に、昨年度に比べ活用が大幅に増えた取組みは、就職指導での活用である。4月下旬から10月の二次選考まで、放課後ののべ30日間就職指導に活用した。本校教諭による就職ゼミ（求人票の見方から志望決定に至るまで、面接個人指導、お礼状作成指導、一次不合格者（1名）への指導、3学期からの新たな就職希望者への指導等）に加え、ハローワークによる春の就職に向けた概要説明、秋の面接最終指導、さらに1月には、「社会人になる心構え」についての指導に進路学習室を活用した。</p> <p>2 授業での活用…本年度よりネットワーク上での使用予約を始め、授業での活用が増加した。</p> <p>1年生：「コミュニケーション英語（以下「CE」）1」の授業で、4人1組のグループごとにiPad1台で調べ学習からプレゼンテーションまでを行った。</p> <p>2年生：「CE2」の授業で、iPadを使った調べ学習、Keynoteを使った英語でのプレゼンテーションに活用した。</p> <p>3年生：「英語表現」の授業で、4、5名のグループ学習に活用した。1人1台のiPadを利用し、それぞれの視点から情報を収集し、毎学期、次のようなテーマで各グループによるプレゼンテーションを行った。 （テーマ：「私たちの枚方市」「日本の都道府県紹介」「行ってみたい／興味のある／照会したい国」）</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 国公立大学合格者：3名 ② 難関私立大学合格者数：8私大25名以上、15私大85名以上 ③ 医療看護系大学及び専門学校合格率の維持・向上：大学65%以上、専門学校100% ④ 就職内定率：100%維持 ⑤ 公務員試験合格率の増加：50%以上（H29：25%→H30：30%）</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 「国公立大学合格者数」：3名（静岡大学2、津市立三重短期大学1） 公務員志望の生徒で国公立大学を希望する生徒のうち、最後まで学校での講習等で頑張り続けてきた3名が合格を勝ち取ることができた。……………（○）</p> <p>② 難関私立大学合格者数……………（△） 「8私大」：7名（関西2、京産2、近畿1、龍谷2）（H30：25名） 「15私大」：36名（上記7名に加え、関西外6、佛教3、摂南13、追手門7）（H30：95名） 受験生の安全志向の傾向が他校と同様に本校でも起こった。指定校推薦の活用を希望するなどにより一般入試まで頑張り続ける生徒が減少した。また指定学部・学科と生徒の希望が合わず指定校推薦の活用も進まなかった。</p> <p>③ 医療看護系大学及び専門学校合格率について、大学は50%、専門学校は89%であった。（H30：大学78%、専門学校63%）……………（△）</p> <p>④ 就職内定率は100%であった。（H30：100%）……………（○）</p> <p>⑤ 公務員試験合格率は100%であった。（H30：30%）……………（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、「進路学習室」を計画的かつ円滑に活用できるようにするため、ネットワーク上で「進路学習室」の予約を行えるようにした。しかしながら、教員への周知が徹底できておらず、この予約システムを十分に活用できなかった。その結果、授業・講習・面接指導・出前授業・ガイダンス・説明会等で進路学習室を活用したにもかかわらず、正確な活用状況も把握できなかった。 ・平日の放課後については、就職指導で利用することが多くなったため、大学等の受験準備のための活用は大幅に減少した。そのため、同フロアの近接する「進路資料室」

	<p>で英語の速読や自習、質問対応、インターネット出願対応を行うこととなった。このように「進路学習室」だけでは生徒の希望に十分応えられないような状況が生まれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「進路学習室」に配備された ICT 機器の機能は、インターネットを利用した調べ学習、プレゼンテーション、ディベート、講習、ガイダンスや説明会等では極めて有効であった。しかし生徒が希望する進路の実現を図るためには、これらに加え、校内における自学自習・質問対応の環境づくりも必要である。
<p>次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク上での予約システムについて周知の徹底を行う。あわせて、活用状況を的確に把握することで、状況に応じた活用の呼びかけを行うなど、活用の促進を図る。また、来年度は1学期の早い時期から、進路指導部内及び学校全体で、それぞれの活用計画を共有しながら調整を行うことで、生徒の進路希望に応じて、より計画的で有効な活用ができるようにする。 ・ 放課後講習等については、まず意識の高い生徒、進路希望が決まっている生徒を中心に早い時期から「進路学習室」を利用した調べ学習や講習等を定着させる。さらに対象者をクラス、学年全体へと広げていくことで、より多くの生徒が進路意識を高め、その準備を早期から着実にできるように導く。 ・ 今年度、近接する「進路資料室」「進路指導室」にも、生徒が進路学習上活用できる書籍を充実させた。「進路学習室」で対応しきれない場合は、それら2つの部屋の書籍も活用しながら、調べ学習や進路相談、過去の入試問題等を利用した自習や質問への対応等を行うことで、学校での自学自習を求める生徒の希望に十分応えられる環境を整えていきたい。